

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立西乙訓高等学校 】

1 実践テーマ	【 IV 】
2 実施対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生スポーツⅡ選択者11名 ・2年3組40名、2年4組40名、台湾国立南投高級中学校16名 ・1・2年生全員（396名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名（スポーツⅡ、総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（国際交流 国際理解） <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<p>(1) ①ブラインドサッカーを体験することにより、障害のある方への理解を深め、共生社会の一員であるという自覚を醸成する。</p> <p>(1) ①パラリンピアン講演を聞くことにより、夢を持つこと、夢の実現に向けて目標を設定し継続して努力することの大切さを学ぶ。</p> <p>(1) ③短期留学で訪日中の台湾の高校生と、日本の伝統文化である「お茶」を一緒に体験することで、おもてなしの心を養い、国際理解教育を推進する。</p>
5 取組内容	<p>(1) ①平成31年1月16日（水）3限・4限目 【スポーツⅡ「ブラインドサッカー体験」】 保健体育科教員から、ブラインドサッカーについての競技方法やルール等の説明を受け、実際にアイマスクを着用してパス、ドリブル、ディフェンス等の練習を行った後、5分間のゲームに挑戦した。</p> <p>(1) ①平成31年1月23日（水）5限・6限 【パラリンピアン講演会】 講師：車いすアーチェリー 上山 友裕氏 リオ2016パラリンピック男子リカーブ個人7位 題名：夢の叶え方 対象：1・2年生全員 内容：アーチェリーの実射披露、夢と目標の違いについて、目標を達成するには、どん底から切り替えた方法、東京パラリンピックに向けて 等</p>

(1) ③平成31年5月29日(火)

【台湾の高校生との宇治茶ふれあい体験】

講師：京都府茶協同組合、日本茶インストラクター協会の皆さん

対象：台湾の高校生、2年3組、2年4組

学校単位での交流を行っている台湾国立南投高級中学校の生徒が本校を訪問し、学校全体で交流行事を行った。そのプログラムの一つとして、日本茶インストラクター協会の講師による宇治の抹茶体験授業を行った。

6 主な成果

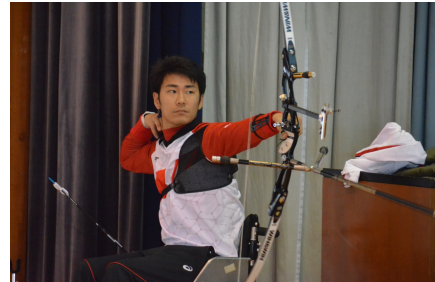
【ブラインドサッカー体験】

アイマスクをしながら普段の動きを行うことの困難さを実感した。また、ボールの中に埋め込まれた「音源」を頼りにプレーする中で、集中力の大切さを学ぶことができた。普段、当たり前だと思っていたことに感謝する気持ちや、障害のある方への思いやりの気持ちを持つきっかけとなった。



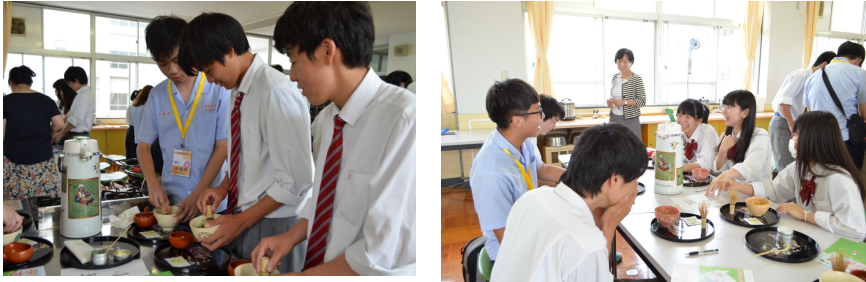
【パラリンピアン講演】

上山氏による講演は、生徒にとって大変有意義な内容であった。さまざまな困難を乗り越えて来られた経験を、明るく楽しく語られる上山氏の姿に、多くの生徒が感銘を受け、目標に向かって頑張ろうとする勇気をいただいた。



(生徒のアンケートより)

- ・夢と目標は全く別のもので、小さい目標を決め、それを一つずつ達成していくことで夢につながるのだと改めて気づかされました。
- ・今、自分にもやりたいことや将来なりたいものがあるので、夢を叶えた上山さんのお話はとても心に響くものであり、自分も夢を叶えられるように、今回の経験を活かしていこうと思いました。
- ・すごく強い人だなと思いました。精神力もだけど人間としてすごく強くて憧れるなと思いました。

	<ul style="list-style-type: none"> 私は勉強や部活や何事においてもネガティブな考えをしてしまうけど、上山さんのポジティブさがとてもすごいなと尊敬しました。やはり、下向きに考えるより、やってみないとわからない事の方がたくさんあると思うので、物事を前向きにとらえて、どんどん自らたくさんすることに挑戦していきたいと思いました。 今日上山選手の話聞いて、出来ることないんじゃないかと、自分で見つけるかどうかなんだなと分かったし、もう手遅れやってみつけずに、何でもやってみて見つけることが大切だとわかった。 <p>【台湾の高校生との宇治茶ふれあい体験】</p> <p>外国の高校生と一緒に日本文化に触れる経験を通して、世界に誇れる日本文化の素晴らしさを改めて認識することができた。また、台湾の高校生たちが素直に日本文化の良さを受け入れていく姿を見て、異文化を尊重し受容することの大切さを学ぶことができたのではないかな。</p> 
7実践において工夫した点（事業の特色）	<ul style="list-style-type: none"> ブラインドサッカー体験では、段階的な指導を行うことで安全面への配慮を行った。 パラリンピアン講演では、舞台上でアーチェリーの実射を行っていただけ、本物の迫力に触れさせることで、パラ競技への興味を喚起した。 台湾の高校生との宇治茶ふれあい体験では、実際に手を動かしながら、出来るだけコミュニケーションをとることを心がけた。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> トップアスリートの講演は大変有意義だが、東京オリンピック・パラリンピックの開催が間近に迫る次年度においては、講師確保が非常に困難になるのではないかとと思われる。 国際交流においては、外部講師に頼るのではなく、生徒自身が日本文化の素晴らしさを、海外の高校生に自ら発信できるようなスタイルが理想的だと思われるが、実際には難しい状況にある。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には今年度の取組を継続したいが、トップアスリートによる講演が実現できるかは不透明。